



有形文化財（工芸品）

34. 梵鐘 1口

■指定年月日 昭和37年2月13日(1962)

■寸法 総高114.6cm 口径64.0cm

■所在地 正院町小路15-11

■所有者 千光寺

初代寒雉の鑄造したものであるが、乗光寺の梵鐘より22年後の元禄14年（1701）に造られている。乗光寺のものより総高では23.4cm、口径では17.1cm小さく造られており、乗光寺の型の縮小品のような感じである。乳は4段4列が4面に、池の間の4面には長文の銘文が彫り込まれ、草の間には蛸唐草の模様、撞木の当たる部分には蓮弁と蓮肉に子房が陽鑄してある。池の間の銘文を以下に示す。

（一区）夫以北陸道能登国珠洲郡
小路村慈眼山千光禅寺
実峰之末裔瑞東和尚之
道場也粵鮎嶋村松波
氏宗閑居士為直源上座

焉正繁宗源新鑄洪鐘
以資助冥福且興起法則也
可謂其志深哉依此当山
永永処備晨香夕灯之
務者也

（二区・三区銘文省略）

元禄十四年^{辛酉}曆二月廿日

（四区）巧冶 加州金沢住

宮崎寒雉義一

願主 鮎島村

松波氏

宗閑居士

鑄物資料として、戦時中の金属供出を免れ、今は本堂内に収蔵されている。